

葉ノ大ナルサ、ナリ城州貴船山鞍馬山ノ奥ニ多シ、苗高サ六尺餘、葉潤サ二寸、長サ八寸許リ、端午ニ此葉ヲ用テ粽ヲ包ム、故ニチマキザ、ト云、唐山ノ箬葉ハ、至テ長大ナル故、笠ニモ製スト時珍云リ、此ヲ箬笠ト云、本邦ニテハ竹籜ヲ用テ笠ヲ作ル、此モ漢名箬笠ト云、竹籜ニモ箬ノ名アル故ナリ、又高山ノ頂ニ多ク生ズルサ、ハ皆高二三尺、葉ハ箬ヨリ小ク、徑リ一寸許、長サ七八寸、老レバ葉邊皆白シ、故ニヤキバザ、ト云、是竹ノ條ニ載スル所ノ山白竹ナリ、

〔和漢三才圖會九十四本〕箬_{音若}

簷_{與箬同} 蓼葉

俗云於加阿之○中略

按箬生堤岳平澤似蘆、故俗呼曰岡葭、

〔古今要覽稿草木〕くまさ、やきばざ、

くまさ、一名うまさ、一名やきばざ、一名へりとりざ、は、漢名を箬竹、一名簷竹といふ、其幹矢竹に似て、細小にして高さ凡三四尺、或は六七尺、その三四尺のものは、每節相さる事三四寸にして、六七尺のものは、それに準じて稍疎なり、その枝はまた矢竹の如く、獨枝にして長し、一幹中四枝或は五枝を生ず、又一幹獨立して絶て枝なきものあれば、その枝却て本幹より太きもあり、すべて一様ならずといへ共、其葉は梢杪に横出して、頗る傘蓋の如し、每梢大低六葉にして、下の一葉は甚細小なれども、その餘の五葉は長大にして、長さおのく七寸餘、廣さ二寸許、新葉はすべて青色にして、その正中に黃白色なる一縦道ありて、葉本より葉先に至る、その左右また相並びて、細十線路ありて、ともに二十線路、葉本より葉先に至る事、全く正中の一縦道に同じ、その老葉は、葉の周圍皆三分許變白して、恰も刀劍の焼刃に異ならず、またその葉中に方解石の細小なるものを並べし如くに、かどだちたる斑文をなすものあり、和漢三才圖會に、秋出縦文點、黃白色といへるは、蓋しこれをさしていひしなるべし、一種こぐまさ、あり、其高さ六七寸、或は一尺許にて、一幹に兩三枝を生ずるものあれば、また本幹のみにして傍枝なきもありて、その頭おのの